住吉っさん

住吉大社のある暮らし sumiyossan vol.39

うのとしのいつの
う月のうのひより祝
ひそめてき住よし
乃加美

住吉大社宮司道弘かく

卯の年のいつの卯月の卯の日より祝ひそめてき住吉の神

社伝古歌（住吉松葉大記）

卯に因んで

住吉大神の御鎮座は、神功皇后摂政十一年辛卯年卯の月の上の卯の日（西暦二一一年）と伝承され、卯に因んだ兎が当社の神使として親しまれてきました。ちなみに、反橋（太鼓橋）を渡ったところの手水舎は兎の水口があり、南北の石畳は卯の日参道と呼ばれています。

暦の上では「卯」は夜明けの時刻で、東方を指して、物事が始まる方角にあたります。動物のウサギは子沢山で子孫繁栄の象徴といい、古くより波に兎の図柄は「玉兎」すなわち満月を表すもので、開運瑞祥とされてきました。

令和五年の卯年では、コロナ禍も収束に向いまして、佳き年であります様に、ご崇敬の皆様のご精進とご多祥を心からお祈り申し上げます。

住吉大社 宮司　**髙井 道弘**

当社はご崇敬の皆さまが安心してご参拝していただけるよう、感染症対策を充分に留意した上、祭祀の厳修に努めてまいります。祭礼や祈祷においても、環境整備を模索してまいりますので、なにとぞご理解ご協力のほどお願い申し上げます。

コロナ禍に於ける祭礼について

新型コロナウイルス感染症の流行から、間もなく3年を迎えようとしています。多くの祭礼が参列・拝観の中止となりましたが、神社の伝統に基づく祭祀の根幹を曲げることなく、神職のみで粛々と執行して参りました。令和4年のコロナ禍に於ける祭礼についてご報告いたします。

インターネットによるライブ配信の様子

御田植神事

国の重要無形民俗文化財に指定されており、例年多くのご参列をいただいておりましたが、一昨年より参列・拝観を中止。今年は三年ぶりに八乙女舞・御田代舞・風流武者行事・田植踊・住吉踊の順に神前において奉納されました。広報手段の一つとしてインターネットを介したライブ配信を実施し、多くの方にご視聴いただきました。

住吉祭

「おはらい」とも呼ばれる夏祭りは、境内に露店が並び、べえら、べえらの掛け声とともに大神輿が宿院頓宮へと神幸します。御田植神事同様、一昨年より諸行事を中止しておりましたが、神輿洗神事を正面参道において斎行、凡そ百名の輿丁が神輿を奉舁し第一本宮まで神幸いたしました。8月1日には安立商店街に於いて神輿奉舁を予定しておりましたが、直前に「大阪府医療非常事態宣言」が発出され、洵に残念ながらトラックでの渡御となりました。

観月祭

反橋上で斎行される雅なお月見行事ですが、感染症の収束には程遠く、中秋の名月の9月10日に本殿祭のみの執行となりました。一日も早い感染症の収束が祈られた後、入選和歌披講・俳句朗詠が行われ、閉門後の境内に神職の声のみが響いておりました。

祭礼は「集まる」ことが前提でありましたが、感染拡大防止の為、多くの祭礼が人数制限や行事の見直しを迫られました。新型感染症の蔓延という緊急事態のなかで、如何に世情が変わろうとも、変わらぬ祭祀の執行を続けるのが神社の立場であります。

一日も早い感染症の収束をご崇敬の皆さまと共に祈りたいと存じます。

住吉かかしプロジェクト
「生物多様性」を学ぶ活動

住吉かかしプロジェクトは、住吉大社が行う食育活動です。境内の御田（神饌田）をメインフィールドとして、都市部在住の児童らに稲作体験と食育の機会を提供することを目的としています。また、農耕文化のひとつである案山子の製作を通して、日本の伝統と風習への理解を深めることを目標に活動しています。

農林水産省「マフ塾 2022」で作成された生き物観察動画

カブトエビ

令和4年8月に行われた農林水産省主催「マフ塾２０２２」において、プロジェクトの取組みのひとつ、「なぞの土」が紹介されました。

「なぞの土」は御田の土を乾燥させたもの。水を入れるとカブトエビやホウネンエビ・ミジンコなどが休眠状態から覚め、活動をはじめます。御田の中を再現することで、米作りに多くの命が関わっていることが学習できる観察教材です。

なんの変哲もない田んぼの土を「なぞの土」と命名。プロジェクト参加者に配布したところ、とても好評で子供たちが熱心に

観察しているとの報告を受けました。初めて見るカブトエビ、土から次々に生まれてくる不思議な生き物に、子供たちが歓喜したそうです。生物多様性を学ぶ良い機会になることから、夏休み期間中の「こども霞が関見学デー」ｗｅｂ企画で紹介していただきました。

わが国は古来より「豊葦原の瑞穂の国」と称され、農耕・稲作を中心に様々な伝統や風習を築き、日本文化として継承してきました。

昨今の農業が抱える諸問題、殊に農業従事者の高齢化や重労働が忌避されることで、祖先が築いてきた日本文化そのものが失われる危機を感じざるを得ません。

大阪市立自然史博物館の御田植物相調査により、大阪府準絶滅危惧種「カワジシャ」や塩性湿地を好む「ハマヒエガエリ」などの貴重植物の生育が確認されました。植物の生育は媒介する昆虫にも大きな影響を与えることから、今後境内整備を考える上で、最も重要な事項となります。

住吉大社における生物多様性を学び、祖先から引き継いだ貴重な文化・御田の環境・日本の文化を確実に次の時代に継承できるよう、持続可能な開発目標を掲げ本プロジェクトにおいて活動して参ります。

本プロジェクトが、将来の日本文化を担う若人の一助となることを期待します。

事務局　岡 康史

御田に生育する大阪府準絶滅危惧種「カワジシャ」

御田の生物飼育セット「なぞの土」取扱説明書

神館南側・東側築地塀 台風21号災害復旧工事を終えて

株式会社瀧川寺社建築 代表取締役
瀧川　悟

このたび、住吉大社の南手水社、五月殿、斎館（登録文化財）の半解体修理工事に引き続き神館南側・東側築地塀（ついじべい）台風21号災害復旧工事に携わることができましたこと、光栄に思います。２０１８年９月４日の台風21号の通過に伴い、境内建物に被害が及びました。

築地塀でも屋根を中心に大部分にわたり被害が発生し、以前からの地盤沈下による塀の傾きもあり、今回の御依頼をお受けすることとなりました。

築地塀工事範囲
全長：63.3m、軒幅：2.2m

本来なら築地塀の壁は、両側面同様の傾きをもって安定したものとなりますが、周囲の状況により一部不安定な状況が発生します。当社の場合、長年の劣化により内側（神館側の御神木）に向かって垂直になるまで傾き、今後の経過が心配される状態になっていました。

また、神館南側築地塀の排水が悪く雨水が滞留し、これが沈下の原因であるとも考えられました。今回の復旧工事では、築地塀の足元がこれ以上破損しないよう、側溝を配して排水不良を改善することが先決かと思われました。

排水経路確保後は、瓦屋根解体工事に着手しました。瓦屋根と木下地を解体すると、想像以上に腐食が進行しており、小屋内の構造の弱さが顕著となりました。

修理方針は、半解体修理の方向で行い、壁の補強と構造体の筋交い補強をすることが適切であると判断し、屋根下地木部の調整・瓦屋根のバランスを確保することで、築地塀本体の傾斜を改善しました。

また、軸部の破損が大きかった南面壁は一部解体し、築地塀本体の構造部材の安定を図るため、傾きのある部材の建て起こしを行い、主要構造部を再構築しました。

瓦葺き工事に当たっては、瓦の破損状況を確認し、再使用可能であるか選別を行いました。選別した当初より残る瓦は凍害を受け難い南面に葺き、新しい補足瓦を北面に葺き上げました。壁面の修理では、壁下地の下塗り補強を行い、築地塀の傾きが大きかった箇所は、壁下地を部分解体し、壁の補強を入れてから旧来通りの漆喰壁を復旧しました。

2018年9月4日の台風21号の被害から4年の月日を経て災害復旧工事が無事竣工し、竣工奉告祭を迎える事が出来ました事。また、日本中が不況により苦慮する中、『堅忍不抜』の精神でこの工事に携わる機会を与えてくださった住吉大社の神様、関係者様方に心より感謝申し上げ、今後も住吉さんの境内維持管理に貢献できる事を弊社一同衷心より願っております。

住吉さんと太閤さん 第五回

――住吉大社にある『絵本太閤記』――

就実大学講師　竹内　洪介

住吉大社と豊臣秀吉――どちらも古くから大阪で愛され、親しみを込めてそれぞれ「住吉さん」「太閤さん」と呼ばれた存在です。ここでは、江戸時代に流布した秀吉の伝記的資料を中心にして、そんな「住吉さんと太閤さん」の意外なかかわりを探ってみたいと思います。

古典文学を研究する、というと、なんとなく、壁一面の本棚にぎっしりと詰まった本に囲まれて、うーん、うーんと日々一人思索の世界に入り込んでいる、そんなイメージをお持ちの方もいるかもしれません。たしかに人文系の研究室を覗けばたいていの場合そんな状態ですし、私が毎日そういう研究室に閉じこもって仕事をしているのも事実です。

とはいえ、研究者というのはアウトドアな仕事でもあります。特に私の専門とする江戸時代を中心とした文学作品の研究では、各地へ取材に行くことも多いものです。日本は江戸時代以前の古い本（古典籍と言います）を全国的な規模で守り伝えてきています。公立・私立の図書館、博物館、美術館、教育機関をはじめ、寺社仏閣、それに全国にいる個人の蔵書家が、たくさんの古典籍を所蔵しています。なお、ここでいう個人の蔵書家というのは、大富豪のような特別な存在だけではありません。令和の現在でも、ヤフーオークションなどで、江戸時代以前の古典籍や屏風、掛軸、短冊などを比較的廉価で手に入れることがで

きます。私も学生時代から多少は古典籍を購入したことがありますし、いろいろな所蔵機関のご協力で貴重な書物を拝見する機会にも恵まれました。そして今回とりあげる住吉大社の御文庫は、日本でも特筆すべき所蔵機関の一つです。住吉大社御文庫は数多くの貴重な書物を所蔵されていますが、今回はその中の一つ、豊臣秀吉の伝記である『絵本太閤記』について、住吉大社御文庫との関連に触れつつご紹介したいと思います。

ところで、そもそもこの記事を書かせて頂いているのは、私が住吉大社所蔵本を閲覧調査するために御文庫に伺ったのがきっかけになっています。住吉大社を訪れたのは、ちょうど私が訪書で全国を飛び回っていたころのことでした。この時に住吉大社で閲覧させて頂いたのが、『絵本太閤記』（一八〇〇年前後成立、武内確斎著・岡田玉山画、全七編八十四冊）の再版本でした。おいおい説明しますが、この再版本は歴史的意義および希少性から実に貴重なものと考えられるものです。なぜこれが歴史的に貴重だと言えるのでしょうか。まずはそこからご説明いたしましょう。

↑住吉大社御文庫蔵『絵本太閤記』表紙。

今ではあまりなじみのない作品になっていますが、『絵本太閤記』はもともと「近世で、いやそれ以後も大阪で出版された本で、最も広く大きな評判を得た小説」と評されるほどヒットした作品でした（中村幸彦「『絵本太閤記』について」）。この好評を受けて、同書は『絵本大功記』として浄瑠璃・歌舞伎として舞台化されてもいます。こうしたヒットの影響か、昭和のころに流行った秀吉の伝記は、多く『絵本太閤記』に取材しています。

また、この書物は挿絵も高く評価されました。私がたまたま所有している研究資料の中に、『絵本太閤記』初編の挿絵を抜き描きして屏風に仕立てたものがあります。私はこれを「絵本太閤記屏風」と呼んでいますが、そ

の名の通り『絵本太閤記』の内容をよく読みこんだうえで描かれたものです。さらに調査を進めたところ、このほかにも大阪城天守閣などに『絵本太閤記』の挿絵を抜き描きした屏風や絵巻が複数存在することが明らかになりました（竹内洪介「屏風になった『絵本太閤記』」）。それほどに、『絵本太閤記』は大ヒットしたコンテンツでした。

ところが、『絵本太閤記』はその完結から二年後に幕府によって絶版になってしまいます。この理由にはさまざまな説があり、定かではありませんが、『絵本太閤記』のあまりの大ヒットで、『絵本太閤記』とその関連作品が幕府に睨まれてしまったことはほぼ間違いのないところかと思います。徳川家ゆかりの人物が次々登場する娯楽作は、幕府にとって好ましくなかったのでしょう。この『絵本太閤記』の絶版は、単に一つの作品を絶版に追い込んだだけではなく、大げさに言えば、当時の文学世界を一変させてしまう大事件になってしまいました。

↑「絵本太閤記屏風」右隻。

まず、『絵本太閤記』の絶版後、幕府はそれまで行ってきた書物に関する政策を改めます。『絵本太閤記』出版時点では、幕府は本屋仲間と呼ばれる商業組合に権限を与え、検閲を委託していました。この制度を幕府は一変させ、本屋仲間を利用した間接的検閲を、名主改という行政主導の直接的検閲に変えてしまいました（井上泰至『江戸の発禁本』、佐藤至子『江戸の出版統制』）。この結果、出版物に対して幕府の検閲が直接影響し、『絵本太閤記』関連の書物は、五〇年近く迫害されることになりました。

なお、このころになると『絵本太閤記』に描かれた挿絵は形を変えて描かれるようになります。ここに挙げた絵は歌川国芳（一勇斎国芳）が描いた浮世絵「英名三十六合戦」の一場面です。観相されている男の名前は、「宮本無三四」（宮本武蔵）と書かれていますね。その通

りこれは武蔵を描いた絵ですが、実は『絵本太閤記』初編巻二「藤吉郎人相」の構図をそのまま用いたものでもあるのです。『絵本太閤記』の多くの挿絵が、こうした形で絶版中も広まったことが知られています（木村八重子「武者絵の側面」）。

さて、約半世紀が経ち、幕末になって、『絵本太閤記』は再び出版されるようになります。なぜ『絵本太閤記』の再版は許されたのでしょうか。その理由はやはり検閲制度に求められるように思われます（以下、竹内洪介「幕末の出版統制と『絵本太閤記』の再版」参照）。

←左、歌川国芳「英名三十六合戦」のうち、「宮本無三四」（岡山県立図書館蔵）。上、『絵本太閤記』初編巻二の一挿絵「修行者藤吉郎を考相す」。

『絵本太閤記』再版当時、名主改は崩壊し、『絵本太閤記』のような読み物は昌平坂学問所という、江戸幕府直轄の教学機関の検閲を受けていました。「学問所」という名前から推察される通り、検閲を担当したのは学問所の学者たちでした。ところが学者というものは、いつの時代も世の中の学説にたいへん敏感なものです。そしてこの当時の学説というのが、意外にも秀吉をたいへん高く評価するものでした。これが検閲方針に影響を与えてしまいます。

幕末当時、歴史好きの方の中にはご存知の方も多いと思いますが、尊王攘夷運動が流行りました。みなさんの中には、尊王攘夷派というのは主に明治維新を成立させた薩摩・長州などのことであって、幕府方はあくまでも保守派、という風に思っていらっしゃる方も多いかもしれません。しかし、そもそも尊王攘夷思想は水戸徳川家の学問思想から影響を受けたものですし、幕府側の人間も、この思想は強く持っていました。そんな中で、当時の国学者たちは、秀吉の朝鮮出兵に注目し始

めます。秀吉の朝鮮出兵を、きわだった功績として認めるのです（これがいわゆる「征韓論」につながっていきます）。幕府側にあって昌平坂学問所のトップであった林復斎の書物検閲にも関わった大槻盤渓は、秀吉を秦の始皇帝や漢の武帝にも勝る、ナポレオンやアレキサンドロス大王にも比肩しうる大英雄と評価しています（井上泰至「帝国史観と皇国史観の秀吉像」）。こうした学説が検閲にまで影響して、『絵本太閤記』は再版されるようになったと思われるのです。

ところが、幕末に再版された『絵本太閤記』は、ほとんど残っていません（意外なことに、絶版前の『絵本太閤記』はあまりにも売れたせいか、今でもたくさん残っていて、全国的に現存しています）。五十年前の本を再版するということで、初動部数が多くなかったのかもしれませんが（この時代、『絵本太閤記』の書名で、今話題にしている再版本とは異なる、同書のダイジェスト版のようなものが複数出版されてもいました。元の本よりダイジェスト版の方が、この当時は受けたのかもしれません）、現存するのはわずか八点、そのうち住吉大社御文庫が所蔵する『絵本太閤記』の再版本は初編および第二編（うち第二編巻六欠）計二十三冊を確認できます。このうち、初編と第二編それぞれの巻末には、刊記と呼ばれる書誌情報がついています。そこには、

絵本太閤記 初編二編各十二冊 既刻／同 自三編至七編各十二冊 近刻／浪華 法橋玉山画（落款）／京都 井上治兵衛 樋口與兵衛 鐫／万延紀元庚申年再 御免、文久紀元辛酉十月刻成／浪華書肆、秋田屋市兵衛、藤屋徳兵衛、河内屋源七郎、河内屋吉兵衛、河内屋新次郎、加賀屋善蔵、塩屋忠兵衛、河内屋太助／豊臣勲功記 自初編至五編 既刻／同 自六編至十編 近刻／文久三癸亥年三月 大阪書肆 心斎橋通唐物町・河内屋太助、同・塩屋忠兵衛、同本町・塩屋弥七

と記されています。このうち弘前市立図書館の所蔵本の刊記を参照して比較すると、二つ目の傍線部「文久三癸亥年三月」を含む、「豊臣勲功記」以下の記載がありません。つまり、弘前市立図書館本は、最初の傍線部に示した通り、文久元年（一八六一）に刷られたもの。一方、住吉大社御文庫本は、文久三年（一八六三）三月に重版されたものといえるのです。この違いに注目すると、重版されたほうのこの本は、現在この住吉大社御文庫本と個人蔵の、併せて二点しか確認できない、たいへん貴重なものといえます。

さて、住吉大社御文庫本には、「元治元年（一八六四）四月」の奉納とも記されています。奉納したのは住吉御文庫講という組織です。

この住吉御文庫講は、大阪天満宮の天満御文庫講と並んで大坂の出版業界を象徴するもので、住吉大社への図書奉納や、蔵書の虫干し等の奉仕活動を行っていました（この活動は現在に至るまで続いています）。つまり江戸時代の住吉大社は文化センターの役割を兼ねてもいたわけで、だからこそこの組織が『絵本太閤記』を奉納したのです（『住吉大社史』）。以下は想像になりますが、もともと住吉大社には初版の『絵本太閤記』があったのでしょう。それが同書絶版の影響でいったん文庫から姿を消し、再版に至って再び収められた、と推察されます。住吉大社に収められたおかげで、この本は現代に残ることができた、ともいえるでしょう。

次回は新資料を紹介する予定です。秀吉が住吉大社に奉納した連歌について、考えてみたいと思います。

↑住吉大社御文庫本『絵本太閤記』初編巻四見返し。

参考文献

・井上泰至『江戸の発禁本』（角川学芸出版、二〇一三年）
・井上泰至「帝国史観と皇国史観の秀吉像―『絵本太閤記』の位置」（前田雅之・青山英正・上原麻有子編『幕末明治移行期の思想と文化』所収、勉誠出版、二〇一六年）
・木村八重子「武者絵の側面―『絵本太閤記』の投影」（『東京都立中央図書館研究紀要』第一三号、一九八一年）
・佐藤至子『江戸の出版統制』（吉川弘文館、二〇一七年）
・竹内洪介「幕末の出版統制と『絵本太閤記』の再版―幕末絵本読本の人名表記をめぐって―」（『国語国文研究』第一五八号、二〇二三年）
・竹内洪介「屏風になった『絵本太閤記』」（中根千絵・薄田大輔編『合戦図：開かれた「武」』所収、勉誠出版、二〇二一年）
・田中卓『住吉大社史』下巻（住吉大社奉賛会、一九八三年）
・中村幸彦「『絵本太閤記』について」（『中村幸彦著述集』第六巻、中央公論社、一九八二年）

住吉開帳

『紀』の中の「鰐」・幻視

住吉大社教学顧問
八木　意知男

はじめに

浦島太郎は亀の背に乗せられて龍宮城へ赴いた。『神武天皇記』速吸門条には国つ神が亀の甲に乗って釣をする、と伝えている。爬虫類の一種であるカメ目の亀が比較的に身近な生き物であり、現世と龍宮を結ぶ存在であると認識されていたと知れる。

ところが、同じ爬虫類の一種ワニ目の鰐は亀と同じく現世と龍宮を結ぶものであろうに些か不当な扱いを受けて来たのではあるまいか。それは、現在の日本には鰐が生息せず、鮫魚の類を「ワニ」と呼んで食物とする地域が存することに起因しているのかも知れない。しかし、住吉大社信仰史の問題としては、これを等閑視すべきでないと考える。鰐が語られる事例の多くが住吉大社信仰と関わっている故のことである。

以下に鰐の事を『紀』に沿うて述べるが、神功皇后迄を対象とし、それ以降には敢えてふれない。

鰐魚の登場

まず「鰐魚」が登場する場面を『紀』（岩波文庫所収本）及び『風土記』（沖森・佐藤・矢嶋編『風土記』、山川出版社、二〇一六年）に依って摘出する。摘出に際し、現代通行漢字に改めた部分がある。

1『神代紀』第八段

又日はく、事代主神、八尋熊鰐に化為りて、三島（摂津国なり）の溝樴姫、或は云はく、玉櫛姫といふに通ひたまふ。而して児姫蹈鞴五十鈴姫命を生みたまふ。是を神日本磐余彦火火出見天皇の后とす。

2『神代紀』第十段本文

豊玉姫、方に産むときに竜に化為りぬ。

3『神代紀』第十段第一ノ一書

（海神豊玉彦の宮に到り）火火出見尊を大鰐に乗せて、本郷に送致りつくる。

（中略）

時に豊玉姫、八尋の大熊鰐に化為りて、匍匐ひ逶虵ふ。

4『神代紀』第十段第二ノ一書

（交通手段ナシ）

5『神代紀』第十段第三ノ一書

故、即ち一尋鰐魚を遣して、送り奉る。

（中略）

産屋を為る。屋の蓋未だ合へぬに、豊玉姫、自らに大亀に駄りて、女弟玉依姫を将ゐて、海を光

して来到る。（中略）天孫、心に其の言を怪びて窃に覘ふ。則ち八尋大鰐に化為りぬ。

6『神代紀』第十段第四ノ一書

（塩筒老翁）計りて曰さく、「海神の乗る駿馬は八尋鰐なり。是其の鰭背を竪てて、橘の小戸に在り。」（中略）「唯し我が王の駿馬は、一尋鰐魚なり。」

7『出雲国風土記』意宇郡安来条

飛鳥浄御原宮御宇大皇の御世、甲戌年の七月十三日に、語臣猪麻呂が女子、件の埼に遥ぶに、邂逅に和爾に遇ひき。賊らえしこと、切にあらず。尓時に、父猪麻呂、賊らえし女子を浜の上に斂め置き、大く苦憤を発し、天に号び地に踊り、行きては吟ひ居ては嘆き、昼夜辛苦みて歛むる所を避ること無し。作是之間に、数日を経歴。然して後に、慷慨き志を興し、箭を磨き鋒を鋭くして、便の処を撰ひて居り。即ち、訴へを擡げて云はく、「天神千五百万、地祇千五百万、幷せて当国に静まり坐す三百九十九の社と海若等と、大神の和魂は静まりて、荒魂は皆悉く猪麻呂が乞ふ所に依り給へ。良に有る神霊坐さば、吾に傷はしめ給ふべし。此を以て、神霊の神しきことを知らむ」といふ。尓時に、須臾く有りて、和爾百余、浄く一の和爾を囲繞み、徐に率て依り来、居る下に従ふ。進まず退かずして、猶囲繞む。尓時に、鉾を挙げて中天を刃すに、一の和爾殺捕ること已に訖はりぬ。然して後に、百余の和爾解散く。殺り割けば、女子が一脛の屠らえたる出づ。仍りて、和爾をば殺り割きて串に挂け、路の垂に立てき。

8『出雲国風土記』仁多郡山野条

恋山。郡家の正南廿三里なり。古老伝へて云へらく、「和爾、阿伊村に坐す神、玉日女命に恋ひて上り到りき。尓時、玉日女命、石を以て川を塞きしかば、会ふこと得ずして恋ひし所なり」といへり。

9『肥前国風土記』佐嘉郡条

此の川上（八木云、佐嘉川）に石神有りき。名をば世田姫と曰ふ。海の神、年常に〔鰐魚を謂ふ。〕流れに逆ひて潜り上り、此の神の所に到るときに、海の底の小さき魚、多に相ひ従ふ。或いは、人其の魚を畏まば、殃無し。或いは、人捕り食はば、死ぬること有り。凡そ此の魚等、二三日住まり、還りて海に入る。

以上、1～9の摘出文は、『紀』及び『風土記』に於いて「鰐」あるいは「鰐魚」と記される生き物が語られる部分である。

これ以外に関係があると考えられるのは、次である。

10『神武天皇即位前紀』戊午年六月条

時に稲飯命、乃ち歎きて曰はく、「嗟乎、吾が祖は天神、母は海神なり。如何ぞ我を陸に厄め、復我を海に厄むや」とのたまふ。言ひ訖りて、乃ち剣を抜きて海に入りて、鋤持神と化為る。

ここに見える「鋤持神」を「ワニ持の神」と考える説が有力視されている故のことである。しかし、それであれば「サビ」と「ワニ」の違いを明らかにする必要がある。両者は書き分けられていると思われるからである。しかし、これを明らめることは今の時点では出来ない。すなわちここに10の如きを対象としない理由に他ならない。

1～9に語られる鰐は、(a)海に住み、(b)龍王に仕え、(c)大・小があり、(d)人間に化身する、等々の特質が認められる。

ワニが日本にいた日

爬虫類ワニ目のなかまは、熱帯や亜熱帯の水辺にくらす。アメリカの影像で内陸部の河川・湖沼の辺に生息する姿が写される為に忘れ勝ちになるが、インド半島・マレー半島等南アジアは、ワニ類の聖地である。特にクロコダイル科のワニは良く知られる。多くの種は淡水辺に棲むがイリエワニの如く海辺に棲み、海中を泳ぐ種も知られている。前掲3・5・6・7・9及び稲羽白兎譚、何れも海に棲む鰐である。

ワニ目のなかまは、穴状の巣あるいは塚状の巣をつくり産卵する。イリエワニの類は塚状の巣で、卵上に草や枯れ枝を積み上げるという。前掲6が

遂に真床覆衾及び草を以て、其の児を裹みて波瀲に置きて、即ち海に入りて去ぬ。

という有り様は、まことにこの塚状の巣を示したものではないか。穴状の巣をつくれば覆いが有る。しかし塚状では覆いは無く、草や枯れ枝を積み上げる。この6資料が「屋の蓋未だ合へぬ」というのは表現の妙である。

ところで、昭和三十九年（一九六四）に大阪豊中の待兼山の四十万年前の地層（大阪層群）からワニの骨格化石が発見された（復元骨格は大阪大学総合学術博物館や大阪市立自然史博物館に有）。学名を「トヨタマフィメイア・マチカネンシス」、和名を「マチカネワニ」と呼ぶ（図版参照）。その後ワニの化石は、三重・神奈川・長崎・大分県等で発見された。広く日本列島に分布していたのである。「マチカネワニ」の学名は、勿論、『神代記』に

是に海神の女豊玉毘売命、自ら参出て白したまはく、妾已くより妊身るを、今産むべき時に臨りぬ。此を念ふに、天神の御子を海原に生みまつるべきにあらず。故れ参出到つとまをしたまひき。

尓れ即ち其の海辺の波限に、鵜の羽を葺草に為て、産殿を造りき。是に其の産殿未だ葺き合へぬに、御腹忍へがたくなりたまひければ、産殿に入り坐しき。尓に産みまさむとする時に、其の日子に白したまはく、凡て、佗国の人は、産む時に臨れば、本国の形になりてなも産生むなる。故れ妾も今本の身になりて産みなむ。妾を勿見たまひそ、とまをしたまひき。是に其の言を奇しと思ほして、其の方に産みたまふを窺伺みたまへば、八尋和邇に化りて匍匐委蛇ひき。（中略）

是を以て、其の産れませる御子の名を、天津日高日子波限建鵜葺草葺不合命と謂す。

（『神典』所収本に依る。ただし、一部の漢字を現在通行字体に改め、ルビを省略した部分がある。）

図版：**マチカネワニ**（骨格標本）　提供：大阪市立自然史博物館
マチカネワニは日本で骨格が発見されたものである。
故に日本にこれが棲息していたのは事実である。

とあるに依るもの。要するにワニ目の類が日本の中で格別な存在ではなかった時代も存在したということである。この記憶の反映こそが鰐の物語であったと思量される。

なお、「マチカネワニ」については

○小林・江口著『巨大絶滅動物　マチカネワニ化石』（二〇一〇年刊、大阪大学出版会）

○土屋健著『地球生命水際の興亡史』（二〇二一年刊、技術評論社）

等に詳しいことを特に記して置く。

ワニの血筋の神々

海と結びついたワニの類が、古く日本にも棲息していた可能性があったことを夢想してよいし、日本海流すなわち黒潮にのって日本へやって来ることもあったとなれば、前掲『神代紀』第十段所謂「海宮遊幸章」が示す海神との交流は大層大きな意味をもつ。

例えば、『住吉名勝図会』巻四には

a海人子社（井垣の外、南向の御社）

祭神市杵島姫。また曰く、葺不合尊・玉依姫とも云へり〈一説に、葺不合尊を祭るゆゑをもつて、あまこの社といふといへり〉

b御井社（海人子社の南にあり。東向の御社なり。竜（マヽ）宮ともいふ）

祭神彦火火出見尊・豊玉姫。

c大海神社（神宮寺の北に隣る、西向の社なり）

祭神豊玉彦・豊玉姫〈『延喜式』神名帳には、大海神社二座、元は津守安人神とあり〉

d大海神社摂社（社内西北の角にあり、南向の社なり）志賀大明神と号す。

祭神底津少童・中津少童・表津少童（棟一にして扉三つあり。○志賀大明神の三神は、彦火火出見尊・豊玉彦・豊玉姫なりとも云ふ）

とある。つまり『神代紀』第十段に登場する神々を御祭神として祀る神社として社頭に展開していたのが右のa～dの如きである。a及びbは、現在は大海神社の並び地に鎮座するが、かつては「井垣の外」（海人子社）とあり、「海人子社の南」（御井社）とある故、御田（神田）の北地に鎮座していたものと考えられる。

梅園惟朝『住吉松葉大記』巻四、摂末部八「大海神社」条に

門前有二一井一とは、今本殿神田の辺に龍宮と名付る社あり。此社内に今に神井あり。其上に社を立て彼井を隠せり。近き比神社破壊して神井顕はれける時、其井を見侍れは悉く土埋りて平地と成り、僅かに井の形ばかりのこれり。其上に猶井筒はありけると、予が家父の語りけるを今によく覚へ侍る。又古本勘文に龍宮と記して其傍に筒井の二字を加へたり。是をみる時は井筒ありける事益明らけし。此社を御井殿と号し、又は龍宮とも申す也。

としている。すなわち、『神代紀』第十段に

1本文

忽に海神の宮に至りたまふ。其の宮は、雉堞（たかがき）整頓（ととのへそなは）りて、台宇玲瓏（たかどのやりかがや）けり。門の前に一の井有り。井の上に一の湯津杜樹（かつらのき）有り。枝葉扶疏（しきも）し。

2第一ノ一書

忽に海神豊玉彦の宮に致ります。其の宮は城闕（かきや）崇華（たかかざ）り、楼台（たかどのうてなさかりに）壮麗し。門の外に井有り。井の傍に杜樹有り。乃ち樹の下に就きて立ちたまふ。

3第二ノ一書

門の前に一の好井有り。井の上に百枝の杜樹有り。故、彦火火出見尊、跳りて其の樹に昇りて立ちたまふ。

4 第四ノ一書

「海に入りたまはむ時に、海の中に自づからに可怜小汀有らむ。其の汀の随に進でまさば、必ず我が王の宮に至りまさむ。宮の門の井の上に、当に湯津杜樹有るべし。其の樹の上に就きて居しませ。」

とあり、海神の宮門の傍に存する井であり、その上には「杜樹」が植えられてあると。但し、住吉社の御井社の側辺に何れの樹木があったかは不明。

そもそも当該地は『住吉大社神代記』にも

亦、表筒男・中筒男・底筒男の三軍神、誨へて日はく、「吾が和魂をば宜しく大御栄の大津の渟中倉の長岡峡国に居さしむべし。便ち往来ふ船を看護さむ。」因、則ち手搓足尼を以て祭拝らしむ。難破の長柄に泊り賜ふ。膽駒山の嶺に登り座す時、甘南備山を寄さし奉る。大神、重宣りたまはく、「吾の住居はむと欲ふ地は渟名椋の長岡の玉出の峡ぞ。」と。時に皇后勅りたまはく、「誰人か此の地を知れるや。」と。(1)「今問はしめ賜ふ地は、手搓足尼の居住地なり。」とまをす。「然かあれば替地を手搓足尼に賜ひて、大神に寄さし奉るべし。」(2)と宣し賜ふ。時に進みて手搓足尼の啓さく、「今須く替地を賜はらずとも、大神の願ひ賜ふ随に己が家舎地等を以て、大神に寄さし奉らむ。」とまをして巳了き。即、大神の住み賜ふこと御意の如くなるに因りて、住吉国と名を改め号し、大社を定めたまひき。即ち悦び賜ひて宣はく、「吾は皇后の、神主と為りたまひ太襷褌を懸けて斎祠たまふは享け賜はじ。手搓足尼に拝戴かれて、天皇君を夜の護、昼の護と護り奉り、同じく天の下の国家人民を護り奉らむ。」と宣り賜ふ。(中略)

「吾は御大神と共に相住まむ」と詔り賜ひて、御宮を定め賜ひき。是を以て渟中椋の長岡の玉出の峡を改めて住吉と号す。これより大神の座賜ふ処々を住吉と称しき。(『住吉大社神代記』第309～第333行)

とあり、傍線部(1)・(2)に依って知られる如く、手搓足尼の居住地に住吉大神和霊は御鎮座なされたことである。と同時に「住吉」地名が宣言された。手搓足尼の家舎地であるからそこに手搓足尼の信仰する祖神が斎祠されてあったとしても不思議ではない。地神第四代彦火火出見尊と地神第五代彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊、就中、彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊を核とする譚は、そのまま応神天皇に投影されていくからである。

おわりに

『住吉松葉大記』は、巻四摂末部八「大海神社」条に

或人云龍宮は琉球国なるへし。龍宮琉球音相近しと。此の説の如くなる時は、豊玉姫を初めとして、当社豊玉彦大神玉依姫命なとも、皆神国日本の種にはあらて、異域琉球国の種なり。決して此理なし。見る人意得へし。

としている。

それはそれとして、神功皇后が住吉大神和霊を奉鎮祭る以前の「渟中椋の長岡の玉出の峡」は如何様な宗教的景観をもっていたのかのぞいて見たい欲望にかられる。そうした中で『神武天皇即位前紀』には

皇祖皇考、乃神乃聖にして慶を積み暉を重ねて、

多に年所を歴たり。天祖の降跡りましてより以逮、今に一百七十九万二千四百七十余歳。

と記している。故に、この基準に従うならば、四十万年前の地層に眠るマチカネワニの勇姿は祖神達が目にしたものとなって来る。また、その祖神の出来事を仰ぎ、神として記憶するのは信仰の発生に不可欠な要素の一つである。

書画の奉納

近藤露石（書家・書海社同人）筆「白居易不出門一節」屏風　六曲一隻
近藤朱鳳氏［作者令嬢］　奉納（令和４年８月25日）

鹿目佳代子画「樹陰」絵画　一点
作者奉納（令和４年９月１日）

水江東穹（住吉大社絵所預）画「延喜楽」屏風　二曲一隻
作者奉納（令和４年９月５日）

「元日　津守国治／待とをに　おもひもてこし　春霞　たつはひと夜の　明ほのゝそら／同　去年立て　春やまたれし　朝霞」

津守国治（住吉神主・津守家第 66 代）筆
「元日和歌発句」詠草　一幅
寺田孝重氏　奉納（令和４年 11 月２日）
ほかに津守徳基（幕末期の国学者）和歌懐紙も奉納

能に描かれる住吉の神

大阪大学大学院人文学研究科　中尾　薫

日本にはたくさんの名所、旧跡があり、土地にまつわる伝説、物語が付随する。伝説があるから名所になったという例だけでなく、その逆もあり得る。たとえば、美しい自然の景物から、とある心情が呼び起こされた歌人が和歌を詠み、その和歌がすぐれて共感を呼ぶと、その土地とその心情とが固定されたイメージを形成する。こうして生まれたのが「歌枕」である。歌枕は、また別の和歌、物語、芸能に、文飾、比喩、暗喩、寓意として利用され、連想されたイメージをあらたに土地に与える。このように重層的に広がりをもつ土地にまつわる文化的秩序を知るには、それを表現し記録、記憶した人間を介して形づくられた諸文化を解き明かすという営みが必要である。

住吉、住の江という名所ではどうであろうか。筆者が関わるデジタル文学地図は、こうした「歌枕・名所を地図上に表示し、その背景にある歴史的、文化的、ポエティックな意味」を可視化することを試みているサイトだが、それによれば[1]、住吉、住の江を詠み込んだ八つの勅撰集の和歌は六十五首ある。一緒に詠み込まれた語句に、「あら人神」、「住吉の神」、「神さびて」といった直接的に住吉大社に由来する語があるのは当然として、特に目立つのが「松」（四十五首）であり、かつて住吉神社が海辺にあって岸の松が美しい風景をみせていたことを思い起こさせる。松は、「待つ」の掛け言葉となって、恋する人を待つ思いとともに、「いく世」「久」「むかし」「神代」といった悠久の時間を感じさせる語が詠み込まれることが多い。八代集が編まれた平安時代から鎌倉時代のころ、住吉はすでに長い歴史を有する土地であったからこそ、そうした詠まれ方がなされるのだろう。それもそのはず、デジタル文学地図の地誌・歴史情報に説明する通り、神功皇后が新羅の戦いへ向かう船を守護した底筒男命・中筒男命・表筒男命を祀ったのが住吉大社である。最初の勅撰和歌集が編まれるおよそ九百年前には、航海安全の神・軍神として存在していたことになる。

時代を経て、今度は異なるイメージが与

えられる。『伊勢物語』一一七段や『袋草紙』上巻に和歌を詠む住吉の神の姿が描かれるようになり、住吉の神が、歌の神として崇拝されていたことが知られる。この背景には、和歌が栄える国は、治世が正しい国であることの明かしであるという考え方がある。今のように科学や経済産業ではなく、和歌が栄えていることが誇りであった時代である。そのため和歌の繁栄を守る神は、国土を守る神と同様と考える。逆に言うと、住吉の神は、むかしから海辺を守り国土を守る神だから、当然和歌を守る神である、とあらたな役割を担ったのであろう[2]。ちなみに佐々木孝浩は「歌神としての住吉明神」において、住吉の神が和歌の神に変わった原因を二つ指摘する。一つは、顕昭『古今注序』に住吉社第三十九代神主津守国基が、住吉社四殿の玉津島明神が和歌浦の祭神で衣通姫だと語っており、玉津島明神が和歌の神であることが契機になったというもの。もう一つは、住吉の白が白髭の老翁として描かれていることと、『古今集仮名序』で歌の聖とされる柿本人麻呂も白髭の老翁であることとの関連である。

ともあれ、こうして国を守る神であり和歌の神という新しい住吉の神が創造された。そういえば、住吉大社の祭礼で奉納される住吉踊りも、

〽住吉様のイヤホエ、あらおもしろの神踊、天長く地久しく、天下泰平、国土安全、五穀成就、民栄え、治まる御代の例とて、かねてぞ植えし住吉の、岸の姫松めでたさよ

という歌詞で、天下泰平、国土安全と国を守る神として住吉様を称えている。岸の姫松は、住吉の神が歌を詠むきっかけとなった『古今集』の和歌九〇五番の影響がうかがえ、和歌の神としての存在を媒介しているようにも思われる。さきほども触れたように、住吉はかつて海岸沿いにあり、広く海の水平線が見渡せた。そこから難波津を望み、遠く淡路島といった島々まで見渡せる風光明媚の地で、千年の寿命といわれる松が岸辺にならびたつ。この景色をまのあたりにすれば、幾久しい時の流れと天下泰平の感慨を感じずにはいられないだろう。

住吉の神が国土安寧を守る神として考えるのは、こうした新しい時代の考え方と、古い時代からある考え方、そして普遍的な考え方とが絡み合い、生み出されていったのではないだろうか。

ところで、そんな住吉の複合的なイメージを現在に伝えるのが能の諸作品である。よく知られた能《高砂》では、住吉の松が、兵庫県の高砂神社にある、これも古くからある高砂の松と「相生」であるという話が基で、「相生」というのはどういうことなのか、その謎が作品中で解き明かされる。もともとは、『古今集仮名序』に、昔の人は自然景物をみては自分の気持ちを投影させて歌を詠んだとする、一例として「高砂住の江の松も相生のやうにおぼえ」をあげているのに拠る。具体的には、『古今集』所収歌のうち、

〽我みても久しくなりぬ　住の江の
岸の姫松　幾代経ぬらん
（古今集、九〇五番）

〽住吉の岸の姫松人ならば　いく世か経しと　問はましものを
（古今集、九〇六番）

〽誰もかも　知る人にせん高砂の松も昔の友ならなくに
（古今集、九〇九番）

といった住吉の松や高砂の松をみて、過ぎ行く時の流れへの感慨を歌ったことを指しているのだろうが、「相生」の文意が分かりにくい。そこで想像をたくましくした中世の学者たちが、相生とは高砂の松と住吉の松がもともと一本の根を持つと言っているもので、高砂の松が『万葉集』、住吉の松が『古今集』の寓意で、古今絶えず和歌が栄えていることを感嘆していると幻想的な解釈をした（『古今和歌集序聞書三流抄』）。能《高砂》は、これを取り入れ、最後に住吉の神が寿ぎの舞を舞う[3]。能《白楽天》では、「日本の智恵」を計りにきた中国の詩人白楽天が、日本では生きとし生ける物は鳥類畜類までも和歌を詠ずるということを知り感嘆するという、荒唐無稽な筋だが、やはり『古今集仮名序』に拠っており、やはり最後には住吉の神が登場する。和歌が栄える世が国土安寧の証拠であり、和歌すなわち国を守る住吉の神という構図が現れた作品といえる。能《雨

月》も、住吉の神を和歌の神として描くが、少し異なる伝承を伝える。

〽抑この神の。因位を尋ね奉るに。昔は兜率の内院にして。高貴徳王菩薩と号し。今は又玉垣の。うちの国に跡を垂れ。和歌を守りて住の江や。松林の下に住んで。久しく風霜を送る

と謡い、住吉の神は、兜率天の高貴徳王菩薩とする。これは仏教の仏、菩薩などが、神道の神に形を変えて現れたと考える本地垂迹説に基づいた説で、平安末の僧瞻西が、和歌神である住吉の神を涅槃経に登場する高貴徳王菩薩として和歌陀羅尼を描き、供養したことに端を発するらしい[4]。『古今著聞集』のほか『源氏物語』『平家物語』『源平盛衰記』にも影響を与えた住吉の神に関するもう一つの伝承である。

このように、さまざまな伝承を持つ住吉、住吉の神について、歴史や文化の広さに思いをはせるのもまた一興であろう。

1　日本のデジタル文学地図（https://literarymaps.nijl.ac.jp/#!/）
2　佐々木孝浩「歌神としての住吉明神」（『銕仙』五二八号、二〇〇四年十一月）
3　伊藤正義「謡曲高砂雑考」（『文林』一九七二年三月）
4　山田昭全「和歌講式について」（『印度學佛教學研究』十七―二、一九六九年）

社務日誌抄（令和四年五月から令和四年一〇月分まで）

令和四年（二〇二二年）

五月

一日　**朔日祭・疫病流行鎮静祈願祭**（※以下、各恒例祭に併せて疫病流行鎮静祈願を執行）。全国弓道大会中止。大阪市立自然史博物館学芸員 長谷川匡弘氏（植物調査）岡禰宜応対。早稲田大学政治経済学術院客員教授 谷川建司氏（資料閲覧）小出権禰宜応対。卯の花苑開苑（三一日迄）。

二日　**卯之葉神事**、献茶 茶道裏千家八木社中・献香 香道閑院流福井北勝洞社中、各奉仕、㈱伊藤園 西本賀則氏参列、舞楽等神賑行事中止。大阪市立墨江小学校写生会境内使用。NHK大阪放送局「関西ラジオワイド」（卯の花苑取材）岡禰宜出演。

三日　**初辰大祭・楠珺社例祭**。住吉祭渡御打合会、川畑 万力禰宜出席（安立福祉会館）。

四日　弓馬術礼法小笠原教場 宗家 小笠原清忠氏来社、宮司面談。

五日　すみよし博覧会実行委員会「レンゲｄｅすみ博」（御田開放）武田権禰宜応対（翌日迄）。

六日　テレビ東京「アド街ック天国」（追加取材）小出権禰宜応対。

七日　BS大阪一二三団育成会総会、神武権宮司・福山 中川 西角権禰宜出席。専任会計士 小島康秀氏来社（決算指導）中野権禰宜応対。住吉踊童女練習、宮嶌権禰宜応対。

八日　東粉浜春まつり、岡禰宜代参（東粉浜小学校）。

九日　高野山真言宗河内宗務支所 野口真紀氏 京極宥海氏以下一〇名来社（催事打合）逸見禰宜・太田権禰宜応対。

一〇日　**市戎大国社月次祭**。御田耕起、御田講員奉仕。大鳥大社 日本武尊御増祀六十年第四回式年大祭奉祝祭、宮司参列、星野権禰宜随行。同、万力禰宜・坂野 滝沢権禰宜助勤。

一一日　フットサルクラブ シュライカー大阪参拝。シニア自然大学校講座、小出権禰宜講師（大阪産業創造館）。

一二日　大鳥大社宮司 水無瀬忠俊氏・権禰宜 万力康司氏来社（大祭回礼）宮司以下面談。ウーマンライフ新聞社 すみよっさん福福の会参拝（翌日・一七日）。

一三日　**大海神社月次祭**。

一五日　**十五日祭**。住吉大社総所預 水江東穹氏夫妻来社、宮司・太田権禰宜面談。港住吉神社氏子総代会並夏祭実行委員会総会 神武権宮司出席。

一六日　神社庁教化委員会、川畑禰宜出席。

一七日　**新宮社例祭**。**浅澤社例祭**。（公財）住吉名勝保存会理事会 富澤権宮司出席。神社庁第九支部定例総会、川畑禰宜・滝沢権禰宜出席。新井俊佑氏来社奉賛。

一八日　ジャパンビジョンフォーラム講演会（綱町三井倶楽部）宮司参加。神楽女茶道稽古（八木社中）。

一九日　神道青年会定時総会、河野 日下 進藤権禰宜出席（ホテル阪急インターナショナル）。

二〇日　**海上交通安全祈願祭**。**御文庫曝書・献本奉告祭**、日本書籍出版協会大阪支部・大阪出版協会・大阪書林御文庫講有志三一名奉仕。

二一日　住吉踊童女練習。

二二日　御田植神事粉黛戴盃式習礼、富澤権宮司・川畑 万力禰宜・日下 福山 西角 鈴木権禰宜・藤﨑主事・中谷神楽女奉仕。

二四日　（一財）住吉村常盤会定例評議員会 小出権禰宜出席。

二六日　住吉消防署・自衛消防協議会総会、宮司書面決議。

二七日　住吉大社会計監査、責任役員 太田重彦氏 山中諄氏・専任会計士 山下孝士氏 小島康秀氏・神武権宮司・中野権禰宜・柳生 吉田 石橋主事出席。境内南北便所改修竣功。

住吉大社所蔵木造男神坐像三躯、住吉神画像群（一括八

点・附二点）、大阪画壇奉納扁額（一括五五面）、大阪市指定有形文化財に各指定。関西北前船研究交流セミナー兵庫県高砂市大会、神武権宮司・逸見禰宜・河野権禰宜出席（高砂市文化保健センター、高砂神社等）。（公社）大阪府建築士会見学会セミナー、小出権禰宜講師。神道青年会近畿地区連絡協議会主催野球大会、西角 星野 鈴木 奥野権禰宜参加（鴻ノ巣山運動公園）。BSラウンドテーブル、日下権禰宜出席。

二八日 **浅沢社月詣。**日本JCシニアクラブ・アジア大会記念エクスカーション、小出権禰宜応対。

三〇日 （学）皇學館評議員会、宮司出席。（学）浪速学院理事評議員会、神武権宮司出席。神社庁教化委員会、川畑禰宜出席。

三一日 定例清掃。職員会議。

六月

一日 **朔日祭・第七十二回全国植樹奉告祭。貴船社例祭。**シニア自然大学校講座、小出権禰宜講師（ホテルプリムローズ大阪）。

二日 住吉警察署協議会、岡禰宜出席。神社庁錬成行事道彦研究会、万力禰宜受講（神社本庁、三日迄）。

三日 **神功皇后正辰祭。**宮司参列（狭城盾列池上陵）高階 星野権禰宜随行、神武権宮司以下職員各遥拝（第四本宮）。大阪大和川ライオンズクラブ奉納 招魂社社号石標奉納奉告祭、同会長 津和邦明氏以下一四名参列。

四日 関西電力送配電㈱大阪南支店エネルギー懇話会総会、宮司出席（あべのハルカス）。BS大阪一二三団会議、福山 西角権禰宜出席。院友会大阪支部総会、富澤権宮司・庄司 星野権禰宜出席（大阪天満宮）。防火防災管理講習甲種新規、倉智権禰宜受講（阿倍野防災センター、翌日迄）。BSなんとう地区指導者研修、中川権禰宜（私市キャンプ場、翌日迄）。テレビ東京「アド街ック天国」テーマ「大阪 住吉大社」放送。

五日 明生力関西後援会総会、岡禰宜代参（道頓堀ホテル）。

六日 国際宗教同志会理事会並創設七十五周年記念総会、富澤権宮司出席（リーガロイヤルホテル大阪）。

七日 **卯之日祭。**

八日 **初辰祭。**

一〇日 **市戎大国社月次祭。**責任役員会、書面決議。神社庁定例協議会、川畑禰宜出席。アサヒビール㈱大阪南支店来社（住吉祭打合）神武権宮司・庄司権禰宜応対。

一一日 安立地区三親会総会、神武権宮司・川畑 岡禰宜出席。

一二日 伊弉諾神宮本名孝至宮司の神職身分特級昇進を祝う会、神武権宮司出席（神戸ベイシェラトンホテル&タワーズ）高階権禰宜随行。物部守屋公墓前祭、川畑禰宜参列（八尾市太子堂守屋公墓所）。放送大学面接授業、小出権禰宜講師（同大阪学習センター）。

一三日 **大海神社月次祭。**御田代掻筋植、御田講三二名奉仕。

一四日 **御田植神事（重要無形民俗文化財）。**御田植神事保存会・御田講（講元 山本英夫氏）・住吉踊保存後援会（会長 長谷川八重子氏）・武者行事保存会（会長 小島康秀氏）・田植踊保存会（会長 西山久永氏）・大阪供奴保存会（会長 阿部清孝氏）、関西大阪二一世紀協会 上方文化芸能運営委員会（委員 阪口純久氏）・住吉大社奏楽部（世話人 高橋昭人氏）等各奉仕。但し神賑行事は、本殿前にて御稔女・植女（稚児なし）・武者行事・田植踊・住吉踊、各奉仕。御田にて田植のみ奉仕（斎牛なし）。御田植神事オンライン試験配信。共同通信・テレビ大阪・大阪日日新聞・大阪観光局・J：COM・中外日報各取材。

一五日 **十五日祭。八所社例祭。**宿院頓宮住吉祭打合会、川畑 万力禰宜出席。神館土塀修復工事着工清祓式、瀧川寺社建築施工（平成三〇年九月四日台風二一号被災分）。

一六日 ウェーブ産経「神職の案内で巡る住吉大社」企画ツアー実施、小出権禰宜・吉田主事応対。観光庁支援事業会議 小出権禰宜・吉田主事出席。墨江丘中学校（職場体験学習事前説明）武田権禰宜・肥後神楽女応対。

一七日 近畿地区中堅神職研修会乙、山下権禰宜受講（神社庁、本日より五日間）。東洋きもの専門学校、境内撮影。

一八日 十八日会、宮司出席（平安神宮）星野権禰宜随行。濱岡節子氏来社奉賛。住吉踊童女練習。

一九日　夏越女習礼、万力禰宜・日下 福山権禰宜奉仕。ＢＳ堺第一団（すみよしかかしプロジェクト参加）岡禰宜応対。

二〇日　**海上交通安全祈願祭**。第七十三回清水みなと祭安全祈願参拝。日本経済大学 准教授 久野潤氏、宮司面談。神社庁第九支部会議、滝沢 倉智権禰宜出席。

二一日　住吉税務署感謝状（確定申告広報協力揮毫）宮司受贈。大阪国学院祭式講師協議会、岡禰宜出席（御堂会館）。

二二日　神楽女茶道稽古（八木社中）。

二五日　港住吉神社 副総代長 赤野久雄氏・（一社）大阪府木材連合会 専務理事 三宅英隆氏・港まちづくり協議会 事務局長 松本英之氏来社（催事協力依頼）宮司・神武権宮司面談。うどんや風一夜薬本舗 代表取締役 末廣伸二氏夫妻、宮司・神武権宮司面談。ＢＳ一二三団会議、高階 中川権禰宜出席。

二六日　第一六回粉浜まつり境内使用。帝塚山派文学学会総会、小出権禰宜出席。

二七日　宿院頓宮崇敬会大祭・飯匙堀大祭・総会、富澤権宮司出席。「関西の祭」動画撮影、岡禰宜応対。

二八日　**浅沢社月詣**。墨江丘中学校職場体験学習五名受入（翌日迄）。末廣堂・斉藤裕昭氏夫妻来社（斉藤家所蔵書画奉納謝恩会）宮司以下懇談。神社庁定例協議会、川畑禰宜出席。天下茶屋小学校写生会境内使用。

二九日　㈱南海電気鉄道（催事依頼）逸見禰宜訪問、高野山真言宗河内宗務支所 野口真紀氏同行。

三〇日　**大祓式**。定例清掃。日本ケンタッキーフライドチキン㈱チキン感謝祭参拝。住吉踊保存後援会会議、神武権宮司・宮嵜権禰宜出席。

七月

一　日　**朔日祭・卯之日祭**。辞令：神楽女見習 古澤良々・大久保麻耶・三枝小夏、神楽女を命ず。社報『住吉っさん』第三八号本日付発行。

二　日　**初辰祭**。住吉文化事業実行委員会「住吉を舞う、踊る。」小出権禰宜講師（住吉区民ホール）。高齢者対象交通安全啓蒙（住吉警察署交通課）境内使用。

四　日　京都三若神輿会（夏季挨拶）岡禰宜訪問。神道青年会研修会、西角権禰宜受講。住吉公園記念催事打合会、小出権禰宜出席。

五　日　神職採用試験面接、川畑禰宜以下立会。観光庁支援事業会議 小出権禰宜・吉田主事出席。堺市茶房カオル（佳節御祝）宮司訪問、高階権禰宜随行。泉南市樽井漁協「泉南夜市住吉祭」奉告参拝。

七　日　**星宮例祭**。㈱伊藤園「お～いお茶」缶一万本奉納、宮嵜権禰宜応対。ＢＳ松竹東急「発酵の里ニッポン」撮影収録。

八　日　産経新聞社（後援依頼）小出 中川権禰宜訪問。

九　日　安立商店街（祭礼打合）川畑 万力禰宜訪問。住吉祭太鼓会会議、万力禰宜・中川権禰宜出席。

一〇日　**市戎大国社月次祭**。無双直伝英信流居合兵法大阪東研究会参拝。

一一日　神社庁教化委員会、川畑禰宜出席。

一二日　高野山真言宗合同催事打合会、逸見禰宜・太田権禰宜出席。

一三日　**大海神社月次祭**。

一四日　**港住吉神社宵宮祭**。涼恵二〇周年記念事業実行委員会、高階権禰宜出席（大阪天満宮）。

一五日　**十五日祭**。**港住吉神社例大祭**。

一六日　住吉踊童女練習。

一七日　粋心流星華吟詠会 宗家 池田哲星氏以下参拝。大阪・関西万博一〇〇日前イベント「木の力―樹齢百年の杉柱と菱垣廻船に捧げる薪能」神武権宮司・名村権禰宜出席（うめきた外庭）。

一八日　十八日会・住吉大社当番、生田神社 宮司 日置春文氏、大阪天満宮 宮司 寺井種治氏、春日大社 宮司 花山院弘匡氏、賀茂別雷神社 宮司 田中安比呂氏、北野天満宮 宮司 橘重十九氏、多賀大社 宮司 片岡秀和氏、長田神社 宮司 脇延秀氏、伏見稲荷大社 宮司 舟橋雅美氏、平安神宮 宮司 鷲尾隆久氏、八坂神社 宮司 野村明義氏、当社宮司 髙井道弘 参会。**神輿洗神事**（本年は正面参道を祭場に、境内にて神輿奉昇を実施）。

一九日　大阪船主会 海上安全祈願祭、会長 櫻田治氏以下四〇名参列。国土交通省近畿地方整備局大阪国道事務所来社、国道二六号線架橋「住吉橋」（堺市堺区竜神橋町一丁・大町西三丁）橋名板、宮司へ揮毫依頼。住吉祭礼図研究会、小出権禰宜出席。

二〇日　**海上交通安全祈願祭**。住吉警察署交通課（催事打合）岡禰宜応対。

二一日　**斯主社例祭**。弓馬術礼法小笠原教場 宗家 小笠原清忠氏参拝。

二二日　住吉公園歴史探訪公開フォーラム、小出権禰宜講師、所蔵資料展示（吉祥殿）。

二四日　NHK「ほっと関西サタデー」境内撮影。

二五日　神道青年近畿地区連絡協議会 禊・鎮魂錬成研修会、西角奥野権禰宜受講（石上神宮）。

二八日　新型コロナウイルス感染拡大を受け、住吉祭の神輿奉舁等の中止を決定。

二九日　大阪国学院通信教育部 祭式助教、岡禰宜助勢。

三〇日　**住吉祭 宵宮祭・神輿遷霊祭**。宮司以下参籠。神賑行事・境内出店等中止（八月一日迄）。

三一日　**住吉祭 例大祭・夏越祓神事（府指定民俗文化財記録選択）**。

八月

一日　**住吉祭 献花式**、平野坂上七名家当屋 末吉勘四郎氏奉仕。**朔日祭**。**住吉祭 神輿渡御・頓宮祭・荒和大祓神事・還輿祭**、本年も車輌列次にて渡御奉仕、神賑行事中止。

二日　**人形流神事**、堺市出島漁業協同組合（代表理事組合長 小西喜一氏）奉仕。堺市文化観光局文化部 部長 勝真雅之氏・同文化財保護課 永井正浩氏 中村晶子氏 北林千明氏来社、神武権宮司以下面談。

三日　神楽女採用現場説明会。拓殖大学附属紅陵高校サッカー部参拝。住吉公園記念事業会議、小出権禰宜出席。『日本鯨紀行―北前船と鯨』境内撮影。

五日　大阪国学院通信教育部 祭式助教、岡禰宜助勢。（翌日迄）。

六日　近畿地区中堅神職研修会、宮嵜権禰宜受講（湊川神社、本日より五日間）。

七日　**卯之日祭**。**初辰祭**。初辰まいり四社各刺繍朱印授与。大阪天満宮太鼓中参拝。交通安全指導（住吉警察署）境内使用。

一〇日　**市戎大国社月次祭**。

一三日　**大海神社月次祭**。市戎大国講会議、川畑禰宜以下出席。

一五日　**十五日祭**。

一七日　神社庁第九支部祭式研修会、岡禰宜・滝沢 倉智 西角権禰宜受講（神館）。

一八日　神社庁教化委員会、川畑禰宜出席。

一九日　大阪国学院通信教育部 祭式助教、岡禰宜助勢。

二〇日　**海上交通安全祈願祭**。

二三日　献詠俳句選者会、選者 古賀しぐれ氏 森田純一郎氏 小杉伸一路氏選考。住吉警察署（催事打合）岡禰宜応対。

二五日　近藤露石書「白居易不出門一節」屏風、近藤朱鳳氏（作者令嬢）奉納。

二六日　山茶花社 家元 西島真森氏参拝。

二八日　**浅沢社月詣**。献詠短歌選者会、選者 佐沢邦子氏 安田純生氏 香川ヒサ氏選考。御祓講獅子会合、西角権禰宜出席。

二九日　住吉警察署交通課来社（催事打合）岡禰宜応対。

三一日　定例清掃。辞令交付。職員会議。

九月

一日　**朔日祭**。**楯社例祭**。職員辞令：神楽女 世古采美、神楽女を免じ主事補を命ず。鹿目佳代子画「樹陰」額、作者奉納。

二日　神道青年全国協議会研修会、西角 星野権禰宜受講。

三日　大阪国学院通信教育部 祭式助教、岡禰宜助勢。止止呂支比売命神社 宮司 樹光治氏来社、宮司面談。

四日　日本全国能楽キャラバン「能で巡る大阪―玉井」小出権禰宜講師（山本能楽堂）。

五日　水江東齊画「延喜楽」屏風、作者奉納。池田市亀之森住吉神社 宮司 名村啓史氏来社、宮司面談。大阪芸術大学 専任講師 道満健生氏来社、逸見禰宜以下面談。

六日　山形県神道青年会 会長 菊地康倫氏以下五名参拝。神社庁教化委員会、川畑禰宜出席。丹生川上神社下社 宮司 皆見元久氏来社、宮司面談。観光庁支援事業会議 小出権禰宜出席。神社庁神道古典研修会、中川権禰宜受講。

七日　住吉・住之江警察署合同交通安全大会、岡禰宜応対、神楽女参加(反橋前)。

八日　e o光チャンネル「村瀬先生のぶらり関西歴史旅」取材。

九日　**志賀神社例祭**。神職身分二級発令証書授与式、武田 太田名村権禰宜出席(神社庁)。観光庁 多言語解説整備支援事業中国語解説、岡禰宜・高階 小出権禰宜応対。

一〇日　**観月祭**(産経新聞社後援・末廣堂協賛)、短歌選者 安田純生氏・産経新聞大阪本社 北村昭宏氏以下参列。住吉踊・舞楽は中止、本殿にて祭典・献詠行事を実施。短歌:天位「柚子香る庭で眺めし十五夜を今年はホームのベランダで待つ」加島清子氏、地位「故郷に見知らぬ家の立ち並び夜道明るし月の無くとも」神鳥寿子氏、人位「スーパームーンなどと呼ぶこと知らぬ母今宵もベッドに月の出を待つ」竹村祐美子氏。俳句:天位「住吉の月愛づるとは祈ること」玉手のり子氏、地位「一舟の水脈の白さや月の湖」塩見成子氏、人位「月明や書斎に残る父の椅子」原山桂子氏。**市戎大国社月次祭**。

一一日　**卯之日祭**。インド政府伝統医学省 国際アドバイザー アショク・クマール氏参拝。

一二日　**初辰祭**。住吉警察署 交通安全広報啓発活動、神楽女参加(反橋前)。モンゴル国立馬頭琴交響楽団(催事打合)岡禰宜・宮嵜権禰宜応対。交通安全指導(住吉警察署)境内使用。

一三日　**大海神社月次祭**。住吉税務署 署長 小林修氏来社(新任挨拶)宮司以下面談。

一四日　大阪「正論」懇話会後援会、宮司参加、高階権禰宜随行。

一五日　**十五日祭**。裏千家献茶式、伊住禮次朗氏奉仕。高野山真言宗河内宗務支所 野口真紀氏以下来社(催事打合)逸見禰宜・太田権禰宜応対。かなえ会講座、小出権禰宜講師(住吉隣保館寿)。

一六日　神楽女採用試験面接、川畑禰宜以下立会。裏千家今日庵(献茶式御礼)高階 星野権禰宜訪問。映画「紅花の守人～いのちを染める」大阪試写会、岡禰宜・小出権禰宜参加(シアターセブン)。

一八日　十八日会、宮司出席(多賀大社)高階権禰宜随行。

一九日　**児安社例祭**。台風一四号接近対策。

二〇日　**天皇皇后両陛下御渡航還幸啓奉告祭**。**海上交通安全祈願祭**。神道講演全国研修大会、西角 星野 奥野権禰宜受講(椿大神社、二二日迄)。産経新聞大阪本社(後援御礼)小出権禰宜訪問。

二一日　神楽女茶道稽古(八木社中)。

二二日　境内駐車場システム会議、岡禰宜・高階権禰宜出席。住吉公園記念事業、小出権禰宜参加。

二三日　**皇霊殿遥拝式**。**招魂社秋季例祭**。神馬塚参拝、宮司・神武権宮司参拝、倉智権禰宜随行。大阪国学院通信教育部 祭式助教、岡禰宜助勢。

二五日　日本吟道奉賛会大阪本部参拝、吟詠吟舞奉納。

二六日　神宮大麻暦頒布始奉告祭、川畑禰宜参列(神社庁)。

二七日　献茶式、表千家不審菴 宗匠左海大氏奉仕。大阪国税局 局長 後藤健二氏来社、宮司面談。

二八日　**浅沢社月詣**。BSテレ東「スゴイなニッポン!業者記者マル秘スクープ」境内撮影。

二九日　神社庁第九支部神宮大麻暦頒布作業、滝沢 倉智権禰宜助勢(生根神社)。

三〇日　七五三詣撤下奉製作業公開、読売新聞・大阪日日新聞・奈良新聞各取材。定例清掃。

一〇月

一日　**朔日祭**。職員辞令:権禰宜 滝沢正太郎に奉賽課長補佐を、権禰宜 倉智啓太に管理課長補佐を命ず。

三日　蓬莱講(献米依頼)高階権禰宜以下各所訪問。オリックス・バファローズ リーグ優勝、中野権禰宜御祝持参(去三月一日参拝祈願)。亀之森住吉神社式年祭習礼、神武権宮司・万力禰宜現地奉仕。升の市実行委員会会合。

四日　立教大学 特任教授 河口真理子氏・(公財)世界自然保護

基金ジャパン来社、岡禰宜面談。住吉踊保存後援会会合、神武権宮司以下出席。

五　日　**卯之日祭**。㈱金剛組（宮中献穀奉納箱依頼）神武権宮司・高階 倉智権禰宜訪問。

六　日　**初辰祭**。止止呂支比売命神社秋季例祭、万力禰宜参列。交通安全指導（住吉警察署）境内使用。

七　日　映画「紅花の守人～いのちを染める」記者会見、小出権禰宜参加。山下総合会計事務所セミナー、中野 武田権禰宜・田岡主事補受講（吉祥殿）。

八　日　関西テレビ「ちゃちゃ入れマンデー」取材、星野権禰宜応対。

九　日　大阪国学院通信教育部 祭式助教、岡禰宜助勢。

一〇日　**市戎大国社月次祭**。愛知県犬山市大縣神社例祭、神武権宮司参列。神S協会合、山下権禰宜出席（大阪天満宮）。

一一日　大阪眼鏡商工連合会・めがねの碑維持管理委員会定例祈願参拝。

一三日　**大海神社例祭**、大海協議会 会長 北村泰規氏・大阪市漁業協同組合 代表理事組合長 北村英一郎氏・大海神社龍宮講各参列。崇敬者見舞につき宮司出張（北海道網走郡美幌町方面）中野権禰宜随行。重要文化財建造物管理実務検討会、高階 倉智権禰宜出席（キャンパスプラザ京都）。近畿螺旋工業㈱小島聡氏、来社奉賛。スカパー「大人の鉄道美学」取材。

一四日　富山県南砺市級長戸辺神社 宮司 山田宣道氏以下参拝。催事合同習礼、高野山真言宗河内主務支所 野口真紀氏来社。

一五日　**十五日祭**。**おいとしぼし社秋季例祭**。㈱蓬莱 代表取締役社長 羅賢一氏以下参拝、感謝祭祈願。関西山口県同郷会神社仏閣同好会参拝。ＮＰＯ法人岳易会・有宵会 理事長 福田有宵氏以下四十名参拝。すみよし博覧会 境内使用、武田権禰宜応対。

一六日　**龍社例祭**。

一七日　**神宮神嘗祭遥拝式**。**御田刈式**、御田講 濵田孝氏・山本巖氏奉仕。**宝之市神事**、御田講 濵田孝氏・山本巖氏、東洋きもの専門学校 田中昭子氏、升の市実行委員会 津山千鶴子氏以下各参列、市女五名奉仕。升の市奉納（絵馬殿）。ＮＨＫ大阪放送局（七五三詣撤下奉製作業）取材。

一九日　**后土社例祭**。神楽女茶道稽古（八木社中）。帝塚山学院大学名誉教授 鶴崎裕雄氏来社、神武権宮司・高階権禰宜面談。大阪府高齢者大学講座、小出権禰宜講師（大阪市教育会館）。

二〇日　**海上交通安全祈願祭**。市戎大国講会合、川畑 逸見禰宜・福山 中川 西角権禰宜出席。

二一日　**船玉神社例祭**。大阪国学院通信教育部 祭式助教、岡禰宜助勢。

二二日　大阪国学院通信教育部 祭式助教、岡禰宜助勢。

二五日　真言律宗第九代管長・総本山西大寺第七十二世長老 松村隆誉猊下を祝う会、小出権禰宜出席（シェラトン都ホテル大阪）。大阪市立粉浜小学校一年生どんぐり拾い。

二六日　皇學館大学共通科目「人生と仕事」小出権禰宜講師。

二七日　大阪芸術大学産学連携会議 逸見禰宜・太田 中川権禰宜出席。高野山真言宗河内宗務支部 特別伝道大会習礼。

二八日　**浅沢社月詣**。和歌山県和歌山市紀州東照宮 宮司 西川秀大氏参拝。皇學館大学理事評議員会、宮司出席。豊中市立千成小学校社会見学、岡禰宜応対。住吉公園記念事業ヒアリング、小出権禰宜参加。

二九日　安立住之江商店会「安立落語会」小出権禰宜観覧（安立商店街）。

三〇日　池田市亀之森住吉神社（名村啓史宮司）御鎮座千二百五十年奉祝祭、住吉大社献幣使 神武権宮司・万力禰宜、祭典助勢 名村権禰宜奉仕、宮司参列、星野権禰宜随行。大阪国学院通信教育部 祭式助教、岡禰宜助勢。

三一日　初詣警備会議、宮司以下出席。オリックス・バファローズ日本シリーズ優勝、中野権禰宜御祝持参（去三月一日参拝祈願）。定例清掃。

裏千家献茶式

9月15日(木)当社の第一本宮におきまして、裏千家宗匠　伊住禮次朗様のご奉仕で献茶式を斎行いたしました。

本年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、呈茶席は中止いたしました。

表千家献茶式

9月27日(火)当社の神楽殿におきまして、表千家宗匠　左海大様のご奉仕で献茶式を斎行いたしました。

本年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、呈茶席は中止いたしました。

令和四年　クエビコ

寄稿

大阪府池田市
亀之森住吉神社
御鎮座千二百五十年奉祝祭

亀之森住吉神社　宮司
名村 啓史

大阪府池田市の当亀之森住吉神社は、奈良時代後半の宝亀元年（西暦七七〇年）にご鎮座して令和二年に御鎮座千二百五十年を迎えました。生憎のコロナ禍により二年の延期を経て、令和四年十月三十日に御鎮座千二百五十年奉祝祭を斎行致しました。奉祝祭に際しましては、住吉大社より来賓として髙井宮司様にお運びいただき、大変心温まるご祝辞を賜り、神武権宮司様には献幣使として大幣帛を賜りました。当神社の御本殿は御鎮座千二百年の際に御造替されましたが、髙井宮司様、神武権宮司様にはその当時の遷座祭でもご奉仕をいただいていて、半世紀の時間を超えてお世話になっている次第でございます。

また、この度の奉祝祭を記念して「かめのもりのすみよしさん」という当神社の由緒を語る絵本を刊行致しました。この絵本の刊行に際しましても神功皇后さまのお話等住吉信仰について髙井宮司様より貴重な助言を戴き、大変ありがたく思っております。

当神社の鎮守の森の中には幼稚園がありますが、その園

児達による稚児行列も行われました。通常、秋の例祭時に隔年で行っている稚児行列ですが、コロナ禍で稚児行列を経験できないまま卒園した小学一年生、二年生も参加して、壮麗な行列になりました。また、江戸時代中期より伝わる大きな神輿が神社にあるのですが、巡行した記録がない中、この奉祝祭に際して、御垣周りではありますが初めて巡行を致しました。

こうして氏子崇敬者達が住吉大神のご神威の高揚のため尽力して斎行された奉祝祭にご本宮である住吉大社より髙井宮司様、神武権宮司様を始め、神職の方々にお越しいただき、ご挨拶やご奉仕戴いたことは当亀之森住吉神社の誉れの一つになりました。

こころより深く感謝申し上げます。

すみよしの初詣は　ゆったりもうで

12月1日～3月末

令和5年の初詣は、混雑を避け皆さまにゆっくりと安心してご参拝いただけるよう、12月1日から3月末までといたしました。皆さまお一人おひとり余裕をもって初詣にお越しくださいますようお願いいたします。

※授与品は十分な数を準備しておりますが、無くなり次第終了します。

◆年末年始の露店の出店はありません

12月31日から1月5日の間、露店の出店はありません。

◆閉門時間にご注意ください

1月1日は午後7時に、1月2～5日は午後6時に閉門します。6日以降は通常通りの午後5時に閉門となります。

◆公共交通機関をご利用ください

12月31日から1月3日の間、住吉大社周辺で交通規制が実施されます。お車でお越しになれません。

◆住吉大社駐車場は有料です

12月31日から1月3日の間、駐車場は閉鎖します。駐車台数に限りがあり混雑が予想されますので、お車でのご利用はなるべくお控えください。

年末年始の参拝時間

月日	開門	閉門
12/31	22：00～（年越し）	
1/1	（年越し）～19：00	
1/2	6：00	18：00
1/3	6：00	18：00
1/4	6：00	18：00
1/5	6：00	18：00
1/6 以降	6：30	17：00

おわびと訂正

前号の『住吉っさん』第38号に掲載しました記事に誤りがありました。

お詫び申し上げますとともに、ここに訂正いたします。

■27頁10行目（『住吉っさん』第38号「中世の事典に見える、神功皇后関連記事」）

【誤】第五代神武天皇

【正】地神第五代鸕鷀草葺不合尊

令和五年（二〇二三）上半期の祭事暦

1月1日（日）	5時	若水の儀	御垣内神井
	6時	元旦祭（中祭）・歳旦祭	第一本宮
1月3日（火）	8時	元始祭	第一本宮
1月4日（水）	13時	踏歌神事	第一本宮
1月7日（土）	11時	白馬神事・昭和天皇陵遥拝式	第一本宮
1月9日（月）	9時	初卯祭	第一本宮
	10時	市戎大国社宵宮祭（宵えびす）	末社市戎大国社
1月10日（火）	9時	初辰祭（※初辰まいりは二の辰）	末社楠珺社
	10時	市戎大国社例祭（本えびす）・若宮八幡宮例祭（湯立神事）	末社市戎大国社 摂社若宮八幡宮
1月12日（木）	11時	御結鎮神事（お弓始め）	第一本宮・神館
1月13日（金）	10時	古札焼納式（とんど）	南駐車場
1月15日（日）	9時	十五日祭・新年献詠祭	第一本宮
1月22日（日）	10時	初辰まいり（※二の辰）	末社種貸社・楠珺社・浅澤社・大歳社
	6時～	今主社例祭	末社今主社
1月27日（金）	10時	立聞社例祭	末社立聞社
2月1日（水）	10時	海士子社例祭	末社海士子社
2月3日（金）	10時	節分祭	第一本宮
	10時	紀元祭（中祭）・橿原神宮遥拝式	第一本宮
2月11日（土）	10時	天長祭（中祭）	第一本宮
2月23日（木）	10時	侍者社例祭	末社侍者社
3月5日（日）	10時	種貸社神種頒賜祭	末社種貸社
3月17日（金）	9時30分	祈年祭（大祭）	第一本宮
	10時	皇霊殿遥拝式	神楽殿
3月21日（火）	9時	招魂社春季例祭	末社招魂社
	11時	松苗神事 並 卯之日祭・神武天皇陵遥拝式	第一本宮
4月3日（月）	11時	正印殿祭	正印殿
4月6日（木）	10時	五社春季例祭	末社五社
4月8日（土）	10時	種貸社例祭	末社種貸社
4月9日（日）	10時	楠玉稲荷社例祭	境外末社港住吉神社楠玉稲荷社
4月10日（月）	11時	鉾社例祭	末社鉾社
4月14日（金）	10時	おいとしぼし社春季例祭・島津忠久公誕生記念祭	末社大歳社内 誕生石
4月15日（土）	11時	昭和祭（中祭）	第一本宮
4月20日（木）	14時	朔日祭 並 全国弓道大会祈願祭	第一本宮・武道館前弓場
4月29日（土）	10時	卯之葉神事・初辰大祭（初辰まいり）	第一本宮
5月1日（月）	8時	御田植神事【重要無形民俗文化財】	末社種貸社・楠珺社・浅澤社・大歳社
5月9日（火）	13時	水無月大祓式	末社楠珺社 末社新宮社 末社浅澤社 末社貴船社
5月10日（水）	6時～	楠珺社例祭	第一本宮・御田
5月17日（水）	8時	新宮社例祭	末社八所社
	10時	浅澤社例祭	五月殿
6月1日（木）	10時	貴船社例祭	
6月14日（水）	13時	八所社例祭	
6月15日（木）	10時		
6月30日（金）	15時		

※朔日祭・卯之日祭・海上交通安全祈願祭などの恒例祭に準ずるものは省略

元祖　さつま焼（登録商標）

さつま焼はその昔
住吉の物産であったさつま芋を
形どったなにわの味、
昔からの銘菓であります。
十勝小豆を精製した
淡白な味のこしあんを、
秘伝の皮で包み、
心を込めて、一本一本竹串に刺して
焼き上げております。
幾星霜の老舗の味をご賞味ください。

摂津一之宮　住吉大社御用達御神饌調進処
御菓子司
株式会社　末廣堂

本　店　大阪市住吉区東粉浜三丁目一二一一四
TEL〇六（六六七一）四四二八
〇六（六六七八）八一三〇
FAX〇六（六六七八）三〇一九

毎週火曜定休日

第39号の表紙　正面手水舎　神兎の吐水口

正面手水舎（反橋東詰・角鳥居前）は、住吉大社の神使ウサギに象った石造の吐水口が特徴。手盥石は戦時中の金属供出で失われた青銅製波上兎燈籠（明治二十七年大阪靭乾物商組合奉納）の台石を転用、昭和三十七年、大阪心斎橋神稜講による奉納。参拝者から親しまれる名所である。

令和4年（2022）12月15日発行（年2回発行）　発行人　高井道弘　発行　住吉大社　住所　大阪市住吉区住吉2丁目9番89号　Tel　06・6672・0753　印刷　真生印刷株式会社